

2019年(平成31年)3月15日(金曜日)

7



【岩手】全日本トラック協会(坂本克己会長)は6日、岩手県で健康管理に関するセミナーを開いた。1月から3月にかけて全国でこうした講習会を開いてきた「運輸ヘルスケアナビシス

全ト協

岩手で健康管理説く

支援システム活用事例

たが、東北での開催は岩手のみ。健康起因による事故防止を強化する目的で、健診診断の事後対応と睡眠時無呼吸症候群(SAS)対策の支援の一環として実施。2017年度に全ト協が構築した「運輸ヘルスケアナビシ

ス템」を活用した健診のフォローアップや、SAS予防に向けた取り組みの運用までの流れを説明した。全ト協の大西政弘交通・環境部付部長が「過労死の防止には、長時間労働の削減と併せてドライバーの健

ケアに関する悩みにお答えできれば幸い」と呼び掛けた。NPO(非営利組織)法人ヘルスケアネットワーク(武田裕理事長)の作本貞子副理事長は、健診の結果を容易に管理できる運輸ヘルスケアナビシステムの必要性を強調。保健師で産業カウンセラーの黒田悦子氏が活用方法と事例を紹介した。作本氏は、SAS対策の進め方についても述べた。(今松大)